2020年３月初版発行　発行：南あわじ市

隠された歴史の謎を解き明かせ！

南あわじの古代の秘密

Vol. 2

南あわじの歴史を研究しつづける埋蔵文化財調査事務所。ここには、町の歴史がギュッと詰まっています。わたしたちが暮らしている地面の下には、数百年前・数千年前のわたしたちのご先祖様の生活の跡があって、その中からは貴重なものが出てくることも。南あわじって、松帆銅鐸をはじめ、どうしてこんなに珍しいものがいっぱいあるの？今回はその謎を事務所の皆さんと一緒に解き明かしていきます。

文化財の発掘現場に潜入！プロならではの技を見る！

農業が元気な南あわじは、都会に比べて今でも発掘作業が盛んなのです。歴史的にも重要な地域であり、発掘される出土品も多い。だからこそ、南あわじの文化財研究は全国的にも非常に高い評価を得ているのです。今回は、発掘現場に潜入！現場の皆さんの、いろんな「プロの技」に出会えましたよ！

南あわじ市にお住まいの作業員さんたち

01 まずはじっくり掘る

しっかり見る

時代を見極める技

分布調査→確認調査→本発掘調査という段取りで、じっくりと時間をかけて遺跡の調査を進めていきます。どんなものが出土してきても、プロの知識ですぐに時代を見極めます。

02 穴ごとに道具をえらぶ

なんでもつくる

道具をつくる技

発掘にはスコップだけなく、料理で使うお玉や大小さまざまなスプーンを使うことも。発掘のプロは身近にあるものを自分で作り変え、自分ならではの掘りやすい道具に変身させてしまうのです。

03 出土品を未来に残す大切な仕事

ていねいに掘る

優しく掘りだす技

地面の中から土器を発見。すぐに取り上げずに、まずはプロが写真を取ったり図面を描いたり、徹底的に記録を取ります。まわりの土を丁寧に取り除き、時間をかけてゆっくりと掘り出すのです。

埋蔵文化財調査事務所 定松さんがあっと驚く！こっそり教える！南あわじ市の歴史トリビア 2

発掘現場からは縄文時代・弥生時代の遺跡が発掘されたり、江戸時代の家のあとが出現したり。私たちが暮らす南あわじ市の歴史のヒミツを定松さんに聞いちゃいます！

定松）弥生時代は直径5メートルの円形の家に住んでいるのが普通なのですが、木戸原遺跡や鐘原遺跡には10メートル級の大きさのものがあるんです。

―――大きいってことは、どういうこと？

定松）大きなものを作るには、みんなで力を合わせる必要があるでしょう？おそらく、住居ではなくて集会所のようなものじゃないかって考えているんですよね。

―――1つの家には何人くらい住めるんですか？

5メートルの家は、4～5人くらい。家の真ん中には囲炉裏があり、1つの家庭ごとに1つの家があったようですね。

―――アフリカのように大きな家に密集して暮らしていると思っていました。

定松）川で水を汲む。火で水を沸かす。男は漁に行ったり力仕事をして、女性は家事をする。生活様式は、現代とあまり変わらないですよ。面白いのは、石包丁や石のノコギリに使われることのある 緑泥片岩（りょくでいへんがん）は和歌山や沼島、徳島の吉野川流域のみにしかないものなんです。つまり、南あわじと何かの交流がないと手に入らない。当時、どんな関わりがあったのかなって想像をふくらませられるのが、埋蔵文化財の醍醐味ですね！

定松佳重さん

南あわじ市教育委員会 埋蔵文化財調査事務所に所属。2015年の松帆銅鐸の発見より前から、調査の最前線で南あわじ市の歴史を調査に臨んでいる。市島内・島外でも数多くの講演を担当。

南あわじ市内で歴史文化を楽しめるスポット 3

周辺の神話伝承地が巡れる神社

自凝島神社と国生み神話伝承地

朱塗りの大鳥居が目印の自凝島神社は、国生み神話に登場する「おのころ島」ゆかりの神社。古代の御原入江（みはらのいりえ）の中にあり、古くからおのころ島と呼ばれて崇敬を集めてきました。

住所／南あわじ市榎列下幡多415 時間／社務所は9時～17時（終日参拝可） 休み／なし 料金／なし 電話／0799-42-5320

江戸時代に銅鐸が出土した聖地

銅鐸出土地 中の御堂

日光寺銅鐸の出土地で、日光寺の土地であったと伝えられています。古文書には、「貞亨3（1686）年の出水により、播磨灘を臨む丘陵からで8個の銅鐸が出土した」との記述があり、付近では銅剣も出土しました。

住所／南あわじ市松帆慶野552 時間／9時～17時 電話／0799-42-3849（南あわじ市埋蔵文化財調査事務所） 駐車場／なし

瀬戸内海に面し古代の船乗りに愛された神社

大和大国魂神社

日本書紀に登場する「御原（みはら）の海人（あま）」を統率したとされる倭（やまと）氏ゆかりの神社で、淡路国二宮と呼ばれます。境内からは大和社印（県指定有形文化財）という古い印鑑が出土しました。

住所／南あわじ市榎列上幡多857 時間／終日参拝可 休み／なし 料金／なし 電話／0799-36-3984

「松帆銅鐸」は、秋に玉青館にて展示される予定！

ホームページ https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/site/matsuhodotaku/

facebook https://www.facebook.com/matsuhodotaku/?ref=br_rs

松帆銅鐸 特設ホームページ

スゴイ!が盛りだくさん 市内のおもしろ遺跡 BEST 3

遺跡とは昔の人の生活の跡が残ってる所のこと。南あわじの中で、埋蔵文化財調査事務所がオススメする3つの遺跡を自信を持ってお伝えします!

1 木戸原遺跡

鉄鋌（てってい）が出土しているのがスゴイ。鉄の板状のもので、古墳時代はこれを熱して、矢じりや剣などを作っていました。でも、古墳時代の日本では鉄を作っていない。つまり、当時の木戸原の人たちが大和王権に貢献し、深いつながりがあったからこそ、鉄を管理していた王権から鉄器の材料をもらえたんです!
※出土地：市三条から市新

2 淡路国分寺

奈良・平安時代に疫病が流行ったり、飢饉（ききん）になったとき、天平十三年（741）に聖武天皇が「全国に国営のお寺を作りなさい」という命令を出し作られたお寺。当時の一番いい立地を選んでいるので、今の国分寺があるところは奈良・平安時代の地域の中心地だったと考えられています。当時から今でもずっとお寺が続いている、全国でも貴重な存在なのです。
※八木国分

3 沖ノ島古墳群

沖ノ島には、なんと6〜7世紀に生きていた17人の権力者たちの古墳（お墓）があるのです。そして、島の周りの海岸周辺にも、17基の古墳も。特に不思議なのは出土した棒状の道具。何に使われたか謎ですが、実は和歌山では5世紀の、明石では7世紀後半の遺跡から発見されているんです。300年かけて、広がっていった棒状の道具。一体何の道具なのか?
※阿那賀伊毘

奈良県内で研究されていた松帆銅鐸!その全貌に迫る!

2015年に発見された松帆銅鐸は、実は今、奈良県にある「奈良文化財研究所」で長い時間をかけて研究されていました。この秋、新しい研究成果とともに南あわじ市に帰ってくる松帆銅鐸。奈良県の研究所の中で一体どんな分析をされていたのでしょうか!?

どうして奈良で研究されていたの?

奈良県の平城京跡にほど近い場所にある「奈良文化財研究所」。ここは、文化財を研究するために作られた国の機関です。昔、奈良は南都と呼ばれる古い都で、多数の古い建築物や古美術品が残ることから、これらを総合的に研究するために設立されました。松帆銅鐸が見つかった時、発掘部門のセンター長である難波洋三さんが、銅鐸研究の第一人者だったこともあり、市内にはない研究機材も多く持っているところから、この研究所に銅鐸の研究をお願いすることになりました。

南あわじ市で展示をする時があったり、実測図を作るために市内に帰ってきた時もありましたが、平成27年から約5年間もの間、奈良で研究が進められていました。

松帆銅鐸の研究に各分野のプロが集結!

奈良文化財研究所にはX線やCTスキャンなど、南あわじ市にはない専門的な機械がたくさんあります。また、研究所にはさまざまな分野のプロフェッショナルが在籍していて、土の堆積を調べる専門家、汚れを取る専門家、錆びないように保存処理をするための専門家など、地質学・保存科学の専門家と一緒に銅鐸の謎に迫ることができました。

あと、松帆銅鐸には、弥生時代の専門家・青銅器の専門家・弥生時代と古墳時代の間の時代の専門家など、関西圏内のプロが集まる委員会もあるんです。

①スキャンをする

X線やCTスキャンをはじめ、銅鐸・舌の成分分析（ICP分析・鉛同位体比分析）の結果、銅鐸には、朝鮮半島産の鉛が使用されていることや、銅・鉛・錫の使われた割合がわかりました。

②入れ子を調べる

発見された7個の銅鐸のうち1個は、全国でも11例しかない、最古段階の菱環鈕式（りょうかんちゅうしき）という形式の銅鐸でした。入れ子の中の砂を1cmずつ取り、記録し、入れ子をはずします。

③土を調べる

ボーリング調査で当時の土を調べ、貝殻を発見。これが海で生きる貝なのか川で生きる貝なのかを調べ、約2200年前の松帆地域はジメジメとした湿地であることがわかりました。

④クリーニングする

研究所の専門家が、銅鐸に付着している泥や汚れを1つ1つ丁寧に取り除き、キレイにしていきます。そして、錆がでる金属器ということもあり、これからの未来に残すための錆び止め等の保存処理にも取り掛かりました。

⑤分析する

実年代が判明したのは全国初!銅鐸の内側に植物が付着していて、その植物の放射性炭素年代測定分析の結果、約2,100〜2,300年前に埋められたことがわかりました。

⑥比較する

日光寺銅鐸と松帆2・4号銅鐸は、同笵（どうはん）といって、同じ鋳型から作られた兄弟銅鐸でした。これが他の地域からも見つかると、地域間の交流や、製作工房の様子が読み取れるのです。